

## ACEF ボランティア活動レポート 2017年（順不同）

年齢 職業	22歳女性 看護学生
	10日間
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マキマ エイズ孤児院見学</li> <li>・エナ 病院見学</li> <li>・エンブ 病院見学</li> </ul>
感想	<p>今回初めてのアフリカ訪問。ACEFのボランティアに参加。</p> <p>とても短い期間だったが、日本とは違った人々の生活や病院での看護の様子に触れることが出来、その環境に適した人々の関わりや看護について考えることが出来た。中でもエナの病院では、病室環境や分娩室の衛生管理など、日本ともギャップに驚くことも多くありましたが、それをただ日本の環境に近づけるのではなく、それを利用する人々の感覚と折り合いを付けながら改善していくことで、より継続できる方法を考えることが出来ると感じた。</p> <p>英語が全くできない状態での訪問だったので、不安な部分もあったが、それぞれの場所で出会う皆さんに優しくして頂き、また、その人柄にもとても助けられ、楽しく過ごすことが出来た。</p> <p>これから自分が看護師として働き、今よりも実践ができるようになったら、今度は役にたてるように戻ってきたいと思う。行って良かった。</p>
意見・改善点など	

年齢 職業	22歳女性 看護学生
活動期間	10日間
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校プール掃除</li> <li>・市場ゴミ回収</li> <li>・マキマ エイズ孤児院見学</li> <li>・エナ病院見学</li> <li>・エンブ病院見学</li> </ul>
感想	<p>何かお手伝いできることがあればと思い参加したが、毎日どなたかに助けて頂くことで、ここでの生活や馬まででない体験をすることが出来た。</p> <p>自分が今暮らしている環境とは全く違うが、どの場所に行っても誰もが笑顔で生活していることを感じる事が出来て、幸せな気持ちになった。</p> <p>マキマでは、子ども達の歓迎の踊りやうたをうたう一生懸命さに心をつかまれ、子どもの持つ可能性をもっと広げることができるよう自分が出来ることをしていきたいと感じた。また、子ども達の笑顔や、寮での無邪気さを見た時、世界中のすべての子ども達が安全に安心して暮らしていける世の中が1日でも早く来てほしいと強く感じた。</p> <p>助産師を志すようになってから妊婦や褥婦だけでなく、男女含め、将来いのちを生み育てていく子どもや思春期の学生の性教育が大切だと考えるようになっていたが、エナでは日本にないアプローチの仕方を見ることができ、勉強になった。</p>
意見・改善点など	

年齢 職業	21 歳女性 大学生
活動期間	約 6 週間
活動内容	<p>ACEF の活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マキマ エイズ孤児院</li> <li>・市内ゴミ回収、調査</li> </ul> <p>他団体での活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校、乳児院、公立学校見学</li> <li>・レスキューセンター（他団体のストリートキッズへの給食配布）参加</li> </ul>
感想	<p>ケニアに行った時、やりたいことが山ほどあったが、何をどうしたら、それが人の約に立つことにつながるのかが分からず焦りを感じた。しかし、ACEF 日本人スタッフのこと言葉や行動を見て、自分はまだまだ人の役に立つレベルまで達していないので、ここでの活動を純粋に楽しもうと思った。ACEF の子ども達うあスタッフ、道端で会うケニア人、ゴミ回収の若者たちとは、私が英語もスワヒリ語も分からず、上手く会話できなかつたけれど、一緒にいるのがすごく楽しくて、毎日笑って過ごしていた。ACEF での活動を通し、改めてケニアが大好きになった。感謝の気持ちでいっぱいだ。</p> <p>特別支援学校、乳児院でのボランティアを通し、障がいのある子ども達と関わることが出来た。ケニアに来て、多くの障がい者が路上で生活する様子を見て、自分の想像以上の現実があることに衝撃を受けた。乳児院を訪れた際、障がいのある児童に対するスタッフの態度が冷たく、もっと支援してくれたら、この子の可能性がもっと広がるのにとやり切れない気持ちになった。そんな気持ちで特別支援学校へ行った際、教師や職員の子どもに対する行動を見て、「良かった」と思った。そして、どの職員に聞いても、この仕事が好き、子ども達は可愛くて天使のよう、と答えてくれたことが、とてもうれしかった。ケニアに来て、あたらめてこう言った子どもや人たちに関わることが楽しくて、幸せで、大好きだということに気づいた。6 週間という本当に見 j 会期間で、多くの活動を通し、今後、自分がどうして行きたいか、少し明確になった。本当に毎日が楽しくてしょうがなく、一瞬で過ぎてしまった 6 週間だった。</p>
意見・改善点など	

年齢 職業	30代女性 助産師
活動期間	約1か月
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イシオロ植林事業報告会準備（環境支援事業）</li> <li>・日本語スピーチコンテスト同行（ナイロビにて）</li> <li>・ACEF主催 ケニア日本文化交流会準備、参加</li> <li>・エナ病院、エンブ病院視察</li> <li>・ホームステイ</li> <li>・ゴミ回収</li> <li>・マキマ エイズ孤児院視察</li> <li>・公立小学校視察</li> </ul>
感想	<p>知人からケニアの話の聞いたり、写真を見たことはあったが、実際に滞在してケニアの人々と関わらせてもらうことで、イメージが変わった。</p> <p>エナの病院に初めて行った時は、清潔感がない病室で、患者さんの体になるべく触れないようにしていたり、注射や点滴の扱いが不潔だったり、回診や処置の時間以外はナースステーションでダラダラと過ごしているなど、マイナスな所が目についた。しかし数日後には印象が変わった。日本では帝王切開術後翌日でも一人で授乳できない人が多いが、手術当日から一人で授乳していたり、公園で過ごしているかのように入院中の患者さん達が中庭に出て自由にしている姿や、右手が骨折していてベッドから動けない患者さんがそれがあたりまえかのように寝たまま左手でごはんを食べている姿を見て、ケニア（アフリカ全土？）の人の自立している強さを感じ、逆に日本が過保護に思えてきた。エンブの病院はもう少し清潔感があったが、日本ほどの清潔・不潔の区別ができていたわけではなかった。しかし、どちらの病院もスタッフも患者さんがとにかく明るくて親切なケニアの人々が大好きになった。</p> <p>また、私が知れたのはほんの一部だが、一つのプロジェクトを遂行するためには、その国の言葉や考え方や状況を知った上で、たくさんの人々が考え、準備・実行し、評価・修正を繰り返すことが大切であり、情熱を持って何かを行うすごさも知った。</p> <p>小学校や JUMP&amp;SMILE の子ども達との関わりもとても楽しかったし、言いたいことの半分も伝えられない自分の語学能力の低さも反省した。</p> <p>最後に、殆ど単語でだが、スワヒリ語で話すと最高の笑顔で言葉を返してくれるケニアの人々と、もっとコミュニケーションが取れるように、次回の訪問まで勉強を続けたいと思う。</p>
意見・改善点など	

年齢 職業	22歳男性 大学生
活動期間	約2か月
活動内容	<p>ACEFの活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンガルー女子高での日本語クラブ</li> <li>・マキマ エイズ孤児院での「ソーラン節」「上を向いて歩こう」指導</li> <li>・ACEFの小学校と公立小学校数校の授業視察</li> <li>・ACEFの小学校の運動会運営、参加</li> <li>・ケニア日本文化交流会準備、参加</li> <li>・ゴミ回収</li> </ul> <p>他団体の活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レスキューセンター（ストリートキッズへの給食支援）での活動</li> <li>・ナイロビ日本人学校視察</li> <li>・キベラスラム視察</li> </ul>
感想	<p>大学3年の時、アフリカの大地を踏むことが僕の一つの夢になった。その中でケニアを選択し、ACEFの活動に参加することを決めた。</p> <p>この2か月間 Rescue center、Jump and Smile、Kangaru girls high school の3か所を主な拠点として活動してきたが、自分自身と向き合い、試行錯誤、挑戦する毎日であったように思う。</p> <p>Rescue center では貧しい小学生やストリートチルドレンの子ども達に昼食を作り提供したり、ストリートチルドレンのためにアクティビティーのクラスを週2回行った。その中で見ることが出来た子どもたちの笑顔は何にも変えがたい世界中の宝物であると感じた。この笑顔を大人である僕たちは何としても守り抜いていかなければならないと思った。</p> <p>その反面、この子達が日々どのような思いでストリートで生活しているのか、何を感じ、何を考え人生を生きているのか、僕がそれをどれだけ理解して、自分のことのように共感して子ども達と接することが出来ているのかな、日々そこに悩みながらの活動だった。</p> <p>Jump and Smile では子ども達皆と「ソーラン節」や「上を向いて歩こう」を行ったが、このアクティビティーをすることが本当に子ども達への支援につながっているのか、本当にやる意義があるのかなとも思ったりもした。しかし、最後にはこの時間を皆と共有するだけでも十分に意義のあることだなと感じることが出来た。Jump and Smile のみんなも思う存分母親に甘えたり、父親と遊んだりしたい年頃であると思うが、明るく強くたくましく生き抜いている姿に勇気をもたらした。</p> <p>Kangaru girls high school では、日本語の授業をした。日本語を母語としない生徒に日本語を教えるのは難しかったが、とても良い経験になった。日本に帰国したら英語と教育学をさらに深く学んで、世界平和と1人1人の幸福に直結する教育を実現していく。</p> <p>ACEFで活動することが出来て本当に良かったと感じている。</p>
意見・改善点など	

年齢 職業	22歳女性 大学生
活動期間	約2週間
活動内容	<p>ACEFの活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンガルー女子高での日本語クラブ</li> <li>・マキマ エイズ孤児院での「ソーラン節」「上を向いて歩こう」指導</li> <li>・ACEFの小学校と公立小学校数校の授業視察</li> <li>・ACEFの小学校の運動会運営、参加</li> <li>・ケニア日本文化交流会準備、参加</li> <li>・ゴミ回収</li> </ul> <p>他団体の活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レスキューセンター（ストリートキッズへの給食支援）での活動</li> <li>・ナイロビ日本人学校視察</li> <li>・キベラスラム視察</li> </ul>
感想	
意見・改善点など	

年齢 職業	20歳女性 大学生
活動期間	約1か月
活動内容	<p>ACEFの活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マキマ エイズ孤児院でのよさこい指導</li> <li>・カンガルー女子高でのよさこい披露</li> <li>・ホームステイ</li> </ul>
感想	<p>今回、ぼボランティア活動の1番の目的は子ども達によさこいの楽しさを伝えることであった。よさこいは自分の価値観、生活をプラスの方向へ変えてくれたものであり、以前からインストラクターとして日本だけでなく、海外のにも伝えたいと持っていたからである。よさこいを通じて見ることの出来た子ども達の笑顔や楽しそうに踊る姿は、一生忘れられない。インストラクターとして、最高の集大成だった。もう少し長く滞在できたら、いろいろと出来たのにと残念である。またこの2週間で、アフリカのしんどくな水不足問題を知ることが出来た。ホームステイ先の村でも</p> <p>水を得るために5～7キロ先の小さな水源に行き、20KGを超える水タンクを抱えて歩く女性や、干からびた農場などを目にし、その深刻さを痛感。今の自分1人では何もしてあげられないことの無力さも感じた。いつか社会人基礎力と知見を得た後、国際協力の道に進みたいという漠然とした目標が出来た。</p> <p>2週間という短い期間だったが、世界一周中に学生として参加することが出来てよかった。ここで学んだことや見たことは、今後の自分の軸として様々な場で役に立つと確信する。改めて、紹介してくれた友人や、参加を許してくれた親、そして、ここで出会った人々に感謝する。</p>
意見・改善点など	

年齢 職業	22歳男性 大学生
活動期間	約1か月
活動内容	<p>ACEFの活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンガルー女子高での日本語クラブ</li> <li>・マキマ エイズ孤児院視察</li> <li>・環境セミナー見学（環境教育人材育成事業）</li> <li>・ゴミ回収</li> </ul> <p>他団体の活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロゴッチョスラムでの環境セミナー見学</li> </ul>
感想	<p>ケニアに行くまでの就職活動や諸々の事情により、悲観的になっていたので、就活後は1人で読書をしたり、小旅行をして時間を浪費。しかし3か月目にしてさすがに飽きてしまった頃、1人で世界を周ることを決めた。その中でアフリカはこわい印象があるものの、理解したい気持ちも強かったため、ACEFという信頼できそうな団体を選んだ。そんな軽い気持ちで旅に出たが、ケニアに来て、子ども達や現地スタッフ、日本人スタッフと触れ合う中で、少しだけ価値観が変わった。「人とのつながりが世の中の変えていること」を実感。ボランティア同士のつながり、現地人とのつながり、子ども達とのつながり、他のNGOとのつながりなど、たくさんのつながりを生み出すために会話は必要であり、そのつながりを深めるために自分の言葉を相手に伝えることが必要であると、簡単でありながらも気づくことの出来なかった大切なことに気づくことが出来た。</p> <p>子ども達と接していくうちに、自分の子どもの部分的な部分が出来てきて、ケニアの子ども達の前では自分の子どもの部分的な部分を開放できて、気持ちよかった。どんどん明るくなることが出来た。いろんなきっかけを与えてくれたことに心から感謝している。今度来るときは、しっかりと自分の将来を見つめて、元気な姿を見せられたらと思う。</p>
意見・改善点など	<p>スタッフ間で、誰がいつナイロビに出るなどの情報があると、車に便乗しやすくなると思う。携帯電話を借りれたのは助かった。</p>

年齢 職業	16歳男性 高校生
活動期間	約10日
活動内容	ACEFの活動： <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、病院、孤児院、有機農法センターの視察</li> <li>・ホームステイ</li> </ul>
感想	<p>今回はケニアでとても貴重な体験をたくさんした。一つ一つがとても濃く記憶に残っている。ケニアがどんな国かというのは本当に頭の中でイメージしたものしかなかったが、実際に行ってみると、自分のイメージ通りで逆に驚いた部分や、イメージした環境とは違いがあり驚いたこと、また発展途上国ならではの風景もあり、とても刺激的だった。</p> <p>学校の子どもたちは日本の幼稚園並みに明るく、自分達の将来のために一生懸命勉強している姿に感動した。あんな多人数の子どもに囲まれるのもなかなか無いことだけど、人生経験豊富な大人達やボランティアと一緒に夕食をとるのも本当に楽しかった。年上の人たちと話すのは知識も増え、自分のためになると思った。孤児院の子ども達の歌と踊りもとても綺麗だった。自分たちのために練習してくれたのかと思うと、感謝の気持ちでいっぱいになった。ACEF 所長さんからの話では、孤児院はお金を生まないで、寄付がないと続けるのは大変ということを知ったので、僕も将来孤児のために活動したいと思っている。</p> <p>ACEFの活動に参加した以外にも、自分は本当に多くの人に知り合えたと思う。皆とても優しく、初対面とは思えないような接し方だったので、僕もとても話しやすかった。あとケニアは料理もとても美味しかった。ケニアでは苦手な料理は一つもなかった。どれもケニアに詳しい所長さんご夫妻やスタッフの皆さんがいたからできた経験だ。今回ケニアに来たことで、ケニアの良いところや、ケニアとアフリカの解決しなければならない多くの課題を発見することができた。今回の体験は自分の人生を左右するものになったと思うし、本当に一生の思い出になった。</p>
意見・改善点など	

年齢 職業	40代女性 会社代表
活動期間	約10日
活動内容	ACEFの活動： <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、病院、孤児院、有機農法センターの視察</li> <li>・ホームステイ</li> </ul>
感想	<p>目の前のこと、目の前にいる人を大切にすることの素晴らしさを体感した10日間。これまで人の成長や幸福感について、研究者として学ぶ中で、人は人によって癒されること、人に感謝されることで幸福感が高められることを十分承知しているつもりだった。しかし、日本での生活において、日々のやるべきこと、その隙間時間を埋めるSNSでの情報収集や交流に、知らず知らずのうちに一日の大半を費やし、家族や友人との対話、新しい人との出会い、遠くで困っている人について思いをはせることなどをなおざりにしていることに気づいた。</p> <p>また、情報とサービスが過剰に供給され、半ば飽和状態になっている日本において、自分の存在価値が見えづらいつ感じることもしなくなかったが、ケニアでの活動を通して、まだ自分にできること、やるべきことはたくさんあると気づき、生きることへの意欲が更に高まりました。</p> <p>これらの学びや気づきは、ケニアに観光目的だけで訪れていたとしたら決して得ることができなかつたと感じている。現地の人と同じ生活を体験し、共に働き、じっくりと言葉を交わす機会など、すべてはACEFさんの心のこもったアレンジメントによつてもたらされた。塩尻所長ご夫妻始め、スタッフの皆さんの活動への熱意があるからこそ、魅力的な人々がさらにその周りでつながりあっているのだと感じた。</p> <p>ACEFさんについては、ある仕事の現地コーディネーターとして同僚に紹介され、私の会社と協働する予定だったが、結局その案件は中止に。しかし、メールでの塩尻所長やスタッフとのやり取りを通して「ここにどうしても行つておかなければ」という想いが沸き上がり、最近日本において生きづらさを感じ始めている息子を誘い思い切つて渡航することに決めた。そしてみなさんとの時間は想像を超える素晴らしいものであり、今後の人生を左右する、大変貴重な糧となる時間を費やすことができたと確信している。</p> <p>私達が失つたものを大事にし、多様な文化を受け入れる、痛ましい過去を持ちながらも前向きに生きる人々であふれるアフリカが、今後世界の中心になり、残つていくような気がしている。</p>
意見・改善点など	最後にリーダーシップを研究してきた立場から、所長ご夫妻のリーダーシップについて一言付け加えさせてください。お二人はまさに「サーバントリーダーシップ」を体現されていると感じた。他者に奉仕することで信頼を得て、目指す方向へ人々を導いていく存在。そんなお二人のリーダーシップについて学ぶためにケニアまで行く価値が大いにあると思つた。